



登録医ニュース

絆 きずな

登録医療機関(令和5年8月末現在)

172施設 196名の先生方にご登録いただいております。



[病 院 の 理 念]

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

[病 院 の 基 本 方 針]

1. 急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために、適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
2. 地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
3. 個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
4. 全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。

JCHO 仙台南病院健康フェスタ 2023 開催報告

令和5年7月1日(土)ザ・モール仙台長町にて、仙台南病院健康フェスタ 2023 を開催しました。ザ・モール仙台長町店の1階から3階に、健康や介護等につながる4つのブースを設置し、いろいろな身体計測やスタンプラリーをきっかけに、仙台南病院を知ってもらおうという企画です。

1 ブース

『コツコツ水分、脱水・熱中症予防』熱中症予防の説明や、経口補水液の配布
腰痛予防ハンドブック配布
JCHO仙台南病院の紹介



2 ブース

『幸せに暮らすためのコツのコツ』
附属介護老人保健施設の紹介と介護相談、地域医療連携室の紹介と医療相談、握力測定



3 ブース

『コツコツ健康づくり』
健診のご案内や、栄養相談
身長測定を行いました。



4 ブース

『看護に興味のある人コッツへおいで』お子さんにナースのユニホームを着用していただき、なりきり写真を撮影



商業施設での開催は、今回初の試みで、お客さんが足を止めてくれるかしら…と不安もありましたが、多くの方に参加していただき、仙台南病院を知って頂くよい機会となりました。

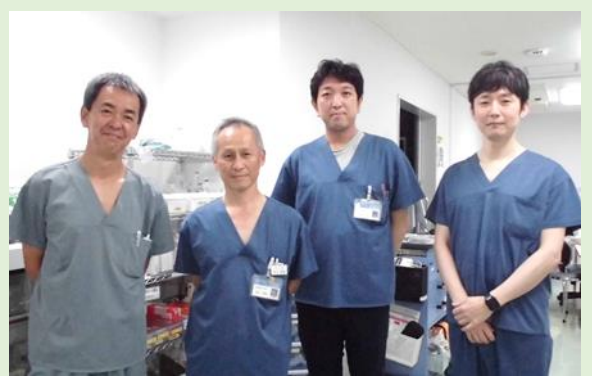
外科 診療科紹介

こ だまひであき
外科診療部長 児玉英謙

登録医の先生方、スタッフの皆様方には、日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。

JCHO 仙台南病院外科は、遠藤公人副院長（平成元年卒）、児玉英謙（平成6年卒）、四條正浩（平成22年卒）、そして昨年4月から原田昭彦に変わって嶋健太郎（平成16年卒）が赴任して、4名で診療しております。

外科の看板を掲げておりますが、普段は総合診療科・外科的な役割を担っており、地域の皆さんの様々なご要望に応えるべく、日々診療に当たっております。



左から 遠藤公人・児玉英謙

四條正浩・嶋健太郎

手術



鼠径ヘルニア、胆石症、虫垂炎、胃や大腸などの消化管手術をはじめ、肝臓癌や胆管癌、膵腫瘍などの肝胆膵領域についても昨年は11例行っております（うち3例は腹腔鏡下肝切除、1例は腹腔鏡下膵体尾部切除）。当院は手術までの待期期間が短く、術後のリハビリ療養は時間をかけてじっくり出来ることが特徴です。悪性疾患の場合は、必要に応じて化学療法（抗癌剤治療）を行ったり、終末期の緩和ケアも担っております。また、担当科の選定が困難なフレイルや誤嚥性肺炎など様々な問題を抱えた高齢者の診療にも携

わっております。その他、褥瘡や蜂窩織炎、带状疱疹などの皮膚科疾患や、転倒や交通事故などの一般外傷にも迅速に対応致しますので、お気軽に地域医療連携室までご連絡頂ければ幸いです。

トピックス

今日は、普段よく遭遇する腹部救急疾患についてと、肝胆膵疾患の最近のトピックスについて、いくつかご紹介したいと思います。

外科的治療が必要となる代表的な腹部救急疾患としては、虫垂炎、腸閉塞、胆嚢炎、消化管穿孔などが挙げられます。

虫垂炎は憩室炎や腸炎、婦人科疾患など多くの鑑別疾患が御座いますが、超音波診断が比較的有用です。CT検査の精度には及びませんが、胆石症や尿管結石などの診断にも欠かせないモダリティです。

穿孔して膿瘍を形成した虫垂炎の場合、以前は緊急手術の適応とすることがほとんどでした。近年は、炎症が限局している場合には、保存的治療で一旦改善させた後に、待機的に腹腔鏡下虫垂切除を行うことで（一般的には約3か月後）術後の創感染や遺残膿瘍などの合併症を軽減出来ることが報告されています。患者さんの症状に応じた治療の選択肢を提示出来るよう努めております。

次に腸閉塞^{*}について述べさせていただきます。（※ご存知の先生方も多いかと思いますが、急性腹症ガイドラインでは機械的閉塞のある場合を腸閉塞と定義し、腸管閉塞のない麻痺性の場合をイレウス

と定義しております)。最近、増えていると感じるのが大腸癌による腸閉塞です。患者さんのお話を聞くと、半年以上前から便秘や腹痛、血便、便柱狭窄、下痢などの腹部症状に気付いていた方が多くいらっしゃいます。抗凝固療法を受けていらっしゃる方では貧血の進行が認められたり、腹部単純 X 線で大腸の便貯留が目立つ場合や、痩せた女性の場合は腹部所見で腫瘤を触知する場合もございます。このような徴候を見逃さずに、是非とも腸閉塞を発症する前に診断して治療に結び付けたいと考えております。

もし、患者さんが大腸カメラを希望されない場合は、超音波や CT 検査、腫瘍マーカーの測定などをお勧めして頂けたら幸いです。また、腸閉塞を発症した場合でも、大腸ステントの留置や、ロングチューブや経肛門的チューブによる腸管の減圧を行い、出来るだけ緊急手術やストマ造設を回避することで患者さんの QOL の向上に努めております。

話題は変わりますが、近年死亡率が増加している消化器の癌といえば膵臓癌です。逆に減少傾向にあるのが肝臓癌です。肝臓癌が減少しているのは、抗ウイルス療法やワクチンの普及による肝炎ウイルスの制御が大きく寄与していると考えられます。しかし、近年 NASH と呼ばれる非アルコール性脂肪肝炎をベースとした肝臓癌が増加しており、糖尿病や脂肪肝のある患者さんでは、定期的なスクリーニングが重要と考えられます。肝臓癌の治療は、TACE（カテーテル治療）やラジオ波焼灼、外科的切除などに加えて、免疫チェックポイント阻害剤（アテゾリズマブ）や分子標的薬（ベバシズマブ）を用いた新しい治療法も登場致しました。外科的切除では腹腔鏡を用いた身体への負担の小さい手術も行われるようになっております。当院にも、今年 4 月より肝臓内科医の長崎医師が赴任されましたので、肝疾患でお困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。

さて肝臓癌が減少している一方で、増加しているのが膵臓癌です。最近の知見によって、術前に化学療法を行った後に手術をした方が、手術を先行した場合よりも成績が良いことが明らかになりました。手術後も再発予防の補助化学療法を 1 年間行うことが推奨されております。近年、FOLFIRINOX（オキサリプラチンやイリノテカンなど）療法や、アブラキサン（アルブミン懸濁型パクリタキセル）やオニバイド（ナノリボソーム型イリノテカン）などの登場で、治療の選択肢は増えつつありますが、やはり早期発見が重要であることに変わりはありません。超音波検査で末梢膵管の拡張を認めたり、血糖コントロールの増悪や、胆管狭窄による肝機能異常などが発見の契機になることが報告されておりますので、これらの徴候を見逃さないことが重要と考えております。

■ 最後に

手術や抗癌剤治療に限らず、病院で治療を受けられる皆様にお伝えしていることは、毎日の生活環境の大切さです。特に、食事と継続して身体を動かすことが重要と考えております。ただし無理をしても長続きしませんので、私がお勧めしているのは散歩と皆さんご存知のラジオ体操です。栄養状態や体力の維持は、健康を保ち、病気に打ち勝つためには最も大切と考えております。他にもお勧めの方法などございましたら是非ご教授下さい。

病院という所は誰も好きで訪れる場所ではございませんが、地域の皆様が少しでも安心して過ごせるようにサポートして参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



■ NST 勉強会開催報告

日時：令和5年6月29日(木)17:30～「肝臓病と栄養」当院消化器内科医師 長崎太



今回、3年ぶりにNST勉強会を開催することができました。当院消化器内科:長崎医師が「肝臓病と栄養」と題しまして、経口摂取・経腸栄養の重要性、多職種と連携し治療にあたることで得られる成果について講演を行い、外部の方々からも、大変ご好評いただきました。

※次回は10月23日(月)褥瘡発生要因と体圧分散・ポジショニングについての勉強会を企画しております。

要Check!

患者様のご紹介について

循環器科

曜日：火・水・金

上記以外、緊急場合は地域医療連携室へご連絡・ご相談ください

糖尿病（新患 完全予約）

曜日：(月)・水

地域医療連携室へ診療情報提供書FAXをお願い致します

泌尿器科（火曜日 休診）

曜日：月・(水)・(木)・金
水 手術日・木 制限あり

上記以外、緊急場合は地域医療連携室へご連絡・ご相談ください

整形外科（要ご相談）

曜日：月・火・水・金

地域医療連携室へ診療情報提供書FAXをお願い致します

いつも当院へご紹介いただきまして、ありがとうございます。
ご不明な点は地域医療連携室へお問い合わせください。



発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番 代表TEL022-306-1711・FAX022-306-1712

地域医療連携室 直通TEL022-306-1740・FAX022-306-1741

